

○研究内容

教員の資質・能力の向上を目指す研修(研究)の推進

- ① 特別な支援を必要とする児童生徒の指導の充実
- ② 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
道徳教育の充実
- ③ 生涯にわたって運動に親しもうとする態度を育む
体育、保健体育の充実
- ④ 外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度
を育む外国語教育の充実
- ⑤ ICT機器の効果的な活用の調査・研究



新体力テストに関わる研修会（体育・保体班）

日 時：平成29年5月16日（火）

場 所：名寄市立名寄西小学校 体育館

講 師：風連中学校 教諭 米田 健二

参加者：名寄市内小学校教員、中学校の体育科担当教員等 合計40名

成果と課題

- すぐに指導に生かすことができた。
- 授業に取り入れやすく、子どもたちが楽しく取り組める内容であった。
- 子どもたちに自信をもたせながら運動させる方法について、学び合うことができた。
- 新体力テストの測定に入る前の研修会の実施

郷土教材『名寄岩』による授業研究（道徳班）



日時：7月24日(月) 6校時
児童：名寄西小学校5年1組
授業者:教諭 齋藤 年恵
主題名:「困難を乗り越えて」
(内容項目1-(2)〈希望・勇気・努力〉)
資料名:『名寄岩』
(名寄市共通教材
参考文献「涙の敢闘賞」)

ねらい

より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけな
いで努力しようとする態度
を養う。

成果と課題

- 大関になる大変さを説明し、子どもたちに相撲の情報を的確に与えていた。
- ICTの効果的使用、内容もよかった。
- 発問数、授業の流れもよかった。
- 交流場面は、一人一人の考えを深めるのに有効であった。
- 「考え、議論する道徳」の実現に向けて
- 自分の考えについて根拠をしっかりとらせること
- 授業最後の自分事として学習を振り返る手立て

外国語活動及び外国語科(英語)について

平成29年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
教育研究(研修)の充実に関する研究グループ

次期学習指導要領の改訂に伴い、小学校では、来年度から2年間の移行期間となり平成32年度から全面実施となります。特に、文部科学省では、外国語教育についてグローバル化が急速に発展する中で、外国語によるコミュニケーション能力の向上を課題としてとらえ、

中学年で外国語活動を、高学年で外国語科(英語)を導入し、それぞれ時数を配当しました。

これを受け、小学校では英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」というコミュニケーション能力の基礎的な力を身に付けさせ、積極的に外国語を使おうとする態度を育成していきます。

本リーフレットを参考に、保護者・地域の皆様方にも「外国語活動及び外国語科」への理解を深めていただければと思います。

今までと何が変わるの？

☆中学校外国語科へのスムーズな接続
☆平成32年度へのスムーズな移行

を目指し

名寄市内全小学校において

来年度(平成30年度)より

外国語活動(3・4年生)・・・年間35時間
外国語科(5・6年生)・・・年間70時間

で先行実施します

そこで名寄市では

増加する授業時間の確保のために、各小学校では
来年度の時間割の編成に取り組んでいます

名寄市内各小学校アンケート調査より

基本方針

日課の見直し
年間の学校行事の精選
朝や放課後の時間の有効活用

予想される時間割の編成パターン

45分授業を週1時間増やす
総合的な学習の時間を運用する など

現在、名寄市内各小学校では自校の実態を考慮し
来年度に向けて編成作業を進めているところです



Q & A

Q1 今までと学習内容は、どのように変わるのですか？

A 3・4年生の外国語活動では、身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を理解する「聞く」活動や、やり取りや発表などの「話す」活動などの言語活動を通して学びます。また、5・6年生の外国語科では「聞くこと」「話すこと」のほかに、活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音するなどの「読むこと」や活字体の大文字、小文字を書くなどの「書くこと」を加え、4つの領域を扱い、児童がさらに英語に慣れ親しむことができるようにしていきます。

Q2 テストはありますか？ もしあるのであれば、どのような内容ですか？

A 5・6年生の外国語科は教科ですので、学習内容の定着を評価する際、ペーパーによるテストも1つの手段として考えられます。その他、活動の様子や学習で活用したワークシートや振り返りシートなどから、児童の資質や能力を総合的に評価します。3・4年生の外国語活動は、教科ではありませんのでテストは行いません。

Q3 通知表の評価はどのようにするのですか？

A 3・4年生の外国語活動では、日常の授業などから児童の学習の様子を見取り、記述により表現します。また、5・6年生の外国語科は、中学校外国語科へのスムーズな接続を図るため、現在の中学校での評価同様、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の観点で評価します。

特別の教科 道徳について

平成29年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
教育研究（研修）の充実に関する研究グループ

学習指導要領の改訂に伴い、「道徳」が **「特別の教科 道徳」** と

位置付けられ、小学校では平成30年4月から、中学校では平成31年4月から全面実施となります。

文部科学省では、グローバル化が急速に進展する中で、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であるとしています。「特別の教科 道徳」では、道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目指します。

本リーフレットを参考に、保護者・地域の皆様方にも「特別の教科 道徳」への理解を深めていただければと思います。

今までと何が変わるの？

道徳の教科化によって、

- ① 指導の目標が明確になります。
- ② 道徳の内容が発達の段階を踏まえた体系的なものになります。
- ③ 多様で効果的な指導方法が求められます。
- ④ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価になります。

これらのことを踏まえて



名寄市内全小中学校において

「考える道徳」、 「議論する道徳」

を目指します

そこで名寄市では

**「考える道徳」、「議論する道徳」の実現のために、
全小・中学校では次のことに取り組んでいます**



- 児童生徒が自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫します。
- 児童生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育てることができるよう工夫します。
- 指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫します。
- 道徳科の授業を公開したり、地域教材の開発や活用をしたりするなどして、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携に努めます。

Q & A

Q1 道徳科の授業では、どのような内容を指導するのですか？

- A 他の教科と同じように教科書を使い、大きく分けて次の4つの項目について指導します。
- A 主として自分自身に関すること
(小学校は善悪の判断、自律など 中学校は自主、自律など)
 - B 主として人との関わりに関すること
(小学校は親切、思いやりなど 中学校は思いやり、感謝など)
 - C 主として集団や社会との関わりに関すること
(小学校は規則の尊重、公正など 中学校は遵法精神、公德心など)
 - D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
(生命の尊さ、自然愛護、感動、畏敬の念など)

Q2 保護者が協力できることはありますか？

- A 子どもさんが学習したことについて、家庭でも話したり考えさせたりして日常生活で実践できるように認め、励ましてほしいと思います。

Q3 家庭でのしつけと道徳科の学習をつなげるには、どうすればよいですか？

- A 学習ノートを見たり学校・学級通信を読んだりして、お子さんの学習の様子を知り、日常生活で実践できたときにほめてあげることで、豊かな心が育っていきます。

Q4 道徳科の評価は、どのように行うのですか？

- A 授業での学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握して、記述により表現します。他の教科のように数値による評価や、他の児童生徒と比較することはせず、子ども一人一人の成長を認め、励ます評価をします。

Q5 道徳科の評価が、入試に影響することはありますか？

- A 授業での子ども一人一人のがんばりや成長を評価したものですので、調査書(内申書)に記載したり入試で活用したりはしません。

1年間の取組を振り返って

◎道徳の郷土教材「名寄岩」の研究について、理解をより一層深めることができた。

◎英語と道徳のリーフレットの作成は、所員が学習する機会となり、保護者・地域の方にも知ってもらえるものとなった。

☆取組を、自校の先生方にしっかり伝える。

☆授業研究、評価についても研修をする。

☆外国語科の授業研究を中心に研修を進める。